

# 新年のご挨拶



玩具人形健康保険組合  
理事長 山縣 常浩

あけましておめでとうございます。

被保険者ならびにご家族のみなさまにおかれましては、穏やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。また、平素より当健康保険組合の事業運営につきまして、格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、野球を筆頭に、女子サッカーや男子バスケットボール、ラグビーなどの世界大会が開催され、日本全体が熱気に包まれ、コロナ禍前の日常を取り戻したことを実感した一年でした。

一方で、新型コロナウイルス感染症は5類に移行したあとも、感染者数が増加と減少を繰り返す日々が続いています。みなさまにおかれましては、適度な緊張感を保ちながら、引き続き健康に留意していただければと存じます。

さて、全世代対応型社会保障制度改正法が昨年5月に可決成立し、一部を除き、本年4月から施行されることになっています。このことから、2024年は私たち健康保険組合にとって大きな改革の年になると予想されます。

現役世代と高齢者の負担のアンバランスの是正が長年の課題とされてきましたが、このたび、後期高齢者医療制度における高齢者の保険料負担割合を見直すこととなりました。これは、制度創設当時と比べ、現役世代一人当たりの後期高齢者支援金が1.7倍に増加しているのに対し、後期高齢者一人当たりの保険料は1.2倍にとどまっており、双方の伸び率をならすよう見直すものです。我々が声を上げ続けた問題が、ようやく具体的な形となって施行される運びとなり、持続可能な社会保障制度の構築を見据えたものとして評価できます。

一方、前期高齢者納付金においては、報酬水準に応じて調整する仕組みが導入されます。現役世代の負担軽減という改革の趣旨を踏まえると、これ以上の報酬調整の拡大は認められません。団塊の世代すべてが75歳以上の後期高齢者となる「2025年問題」と、その後も少子高齢化による厳しい状況が見込まれるなか、健保組合は、現役世代の負担軽減のため、関係団体一丸となって国へ訴えてまいります。

本年7月に、パリオリンピック・パラリンピックが開催されます。前回大会時に猛威をふるった新型コロナウイルス感染症が収束したわけではありませんが、私たちは知恵を出し合い、幾度も難局を乗り越えてきました。同時に、健康であることの尊さを身に染みて感じました。健保組合の存在意義である“みなさんにご家族の健康と安心を守ること”を強く再認識し、本年も事業の運営に努めてまいります。

結びに、本年がみなさまにとって実り多き一年となりますことを心よりお祈り申し上げて、新年のご挨拶とさせていただきます。